広島で被爆体験談を聞く  
参加者ら

## 次世代に平和の大切さ発信

羽村市 広島へ中学生派遣

### 交付金活用し

当協議会の世界連邦推進事業交付金を活用して、本年度は東京都羽村市が「世界連邦推進 広島平和啓発施設見学会」を実施しました。

恒久的な平和や世界連邦思想の普及を図るため、将来を担う若い世代を広島へ派遣し、戦争の悲惨さや平和の大切さについて学び考え、後世に伝えていくことができる人材を育成しようというものです。同市内の3中学校から計6人と引率の教員・職員らが8月5日

当協議会が全国の自治体に協力を呼びかけて実施している「世界平和と難民救済のための自治体職員1人100円

ご協力ありがとうございました

### 世界平和・難民救済募金に608万余円

募金に、平成25年度は153自治体から計608万1663円に上る善意をお寄せいただきました。ご協力いただきました職員のみなさま、また事

務を担当いただいたご当局に厚くお礼申し上げます。

これらは募金の趣旨に沿って、世界連邦の推進や中東和

務を担当いただいたご当局に厚くお礼申し上げます。

事前研修を経て被爆地に赴いた参加者は、「ヒロシマ青少年平和の集い」や6日の平和記念式典に臨んだほか、平

から2泊3日の日程で広島市を訪問しました。

世界連邦推進事業交付金は、当協議会が加盟自治体の世界連邦・平和関係事業に活用してもらうため設けている制度で、要綱に沿って50万円を限度に交付。申請は、事業実施年度の前年末までとなつていて取り組みました。

世界連邦推進事業交付金は、

世界では、紛争などで祖国を追われた難民は5100万人、飢えや病気で命を落とす子どもは1日3万人に及ぶといいます。みなさまから寄せられた善意は、これらの窮状の救済に役立てられます。募金は本年度も例年どおり実施する計画で、年明けにご案内する予定です。引き続きご協力くださいますようお願ひいたします。

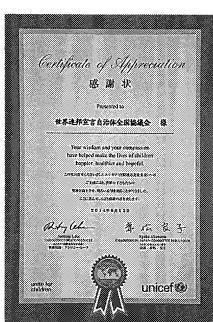
# いま、一つの世界を

自治体協新聞

発行  
世界連邦宣言自治体  
全國協議会  
(事務局=京都市綾部市若竹町8-1  
〒623-8501綾部市若竹町8-1  
TEL(0773)42-3280  
FAX(0773)42-4905



見学会の成果を発表する報告会も設けた



募金の寄託先から届いた感謝状

世界連邦宣言

和記念資料館や慰霊碑を見学したり被爆体験談を聴いたりし、その見聞を事後研修や報告会で発表しました。また、事業を通して感じたことを、

来年作製する計画の「戦後70周年平和作文集」に掲載するといいます。事業費58万円余のうち50万円に交付金を充て取り組みました。

### 本年度総会は中止に

当協議会の本年度総会は8月29日に広島市で開く予定でしたが、直前に当地で発生した土砂災害の甚大さを重く受け止め、中止といたしました。

理事会、総会に諮る案件につ

いては文書により承認をいただくことにし、このほど一連の手続きを終えました。こうした運びに伴い『自治体協新聞』の発行もこの時期になりましたこと、お断り申し上げます。

(事務局)

謝状が届きました。

世界では、紛争などで祖国を追われた難民は5100万人、飢えや病気で命を落とす子どもは1日3万人に及ぶといいます。みなさまから寄せられた善意は、これらの窮状の救済に役立てられます。募金は本年度も例年どおり実施する計画で、年明けにご案内する予定です。引き続きご協力くださいますようお願ひいたします。

## 21世紀の今、なぜ必要なのか?・

世界連邦に科学と哲学の立場からアプローチする新たな試みとして「世界連邦フォーラム2014 in 東京」が9月23日、日比谷図書文化館で開かれました。

世界連邦運動は戦後まもなく始まり60年以上の歴史を持ちますが、あらためて21世紀的な切り口から世界連邦の必要性を問い合わせ直そうというねらいで、NPO法人世界連邦21世紀フォーラム(木戸寛孝代

表)などが企画・開催。

科学者の立場から慶應義塾

大学大学院システムデザイン・

マネジメント(SDM)研究科の前野隆司教授が、哲学からは千葉大学大学院人文社会科学研究科の小林正弥教授が

## 哲学学者 が語る『世界連邦』

### 東京でフォーラム開催

#### 科学の立場から:

#### 世界連邦は必然の

#### グローバル・ガバナンス

前野教授は「システムズア連邦の必然性」と題して話し、地球の生態系やグローバル化

それぞれ基調講演したあと、木戸代表(世界連邦運動協会常務理事)を交えて鼎談し、様々な角度から世界連邦の可能性を探りました。



脳科学なども援用し現実と理想・平和のシステムとしての共存を唱える前野教授(上)  
／哲学者の立場から地球公共平和の理念と人類の幸福について力説する小林教授(左)  
II 日比谷図書文化館で

した人間社会を一つの系(システム)としてとらえたとき、そのシステムを持続可能なものとしていくには世界連邦というグローバル・ガバナンスが必然的に必要であることを、科学的な見地から解説。

AI(人工知能)の研究に携わる同教授は、脳神経科学や心理学、医学、生物学などを援用して倫理的な問いを考察し、現実主義と理想主義・平和主義を対立させることなく、システムとして共存させ

#### 哲学の立場から:

#### 人類の幸福を追求

「アリストテレスの系譜から平和とは何かを考える」と題して講演した小林教授は、「なぜ世界平和は実現しない

ることを唱えました。

ご自身が委員長を務めるSDM研究科に「幸福・平和研究センター」を発足させるべく準備中といいます。

このあと「世界連邦が21世紀の今、なぜ必要なのか?」をテーマに鼎談し、「対話を深めることで(対立はなくならないにしても)戦争にはならない」などと意見交換を行いました。

今回のフォーラムは、今年見送られた世界連邦日本大会に代わって企画されました。来年は綾部市で日本大会を開催する予定です。



鼎談で様々な角度から意見交換

のか?」という“哲学的な”問いから「地球公共平和の理念」や「幸福の哲学と心理学」「幸福と地球公共平和」などをテーマに、世界連邦の構想を交えて詳述。